

【学力向上フロンティア用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	揖保郡太子町立太子西中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	5	5	2	16	30
生徒数	144	186	162	5	497	

研究の概要

1. 研究主題

・個に応じた指導方法の工夫と評価を生かした指導の改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・1年生・国語 あらゆる教科の基礎となる教科であるため。 ・2年生・英語 生徒の理解度に差が出やすい教科・学年であるため。 ・3年生・数学 生徒の理解度に差が出ている教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

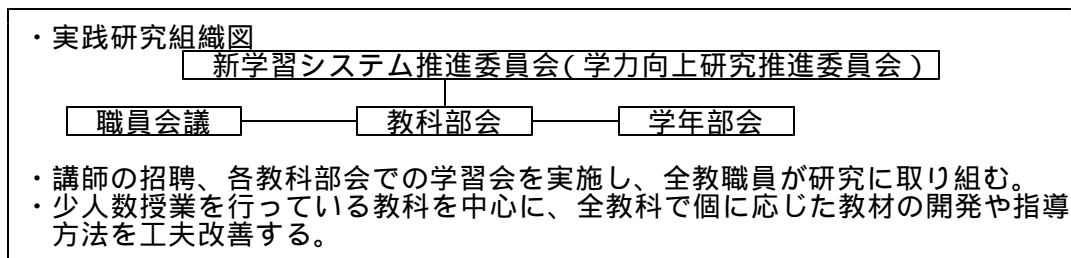
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を図るため、個に応じた指導方法、評価を工夫改善する。 研究の見通し(仮説) 少人数授業やT・Tによる個に応じたきめ細かな指導によって、適切な支援や評価を行い、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を向上させることができる。</p> <p>研究内容・方法 ・各教科において、基本問題の定着度を確認するために、単元ごとに小テストを行い、つまずきの大きい生徒には、早期に適切な指導を心がける。 ・基礎・基本的学力の定着と向上を目指し、教材を工夫する。 ・単元ごとに評価をきめ細かく行い、学習意欲を高め、確かな学力を向上させる。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を図るため、個に応じた指導方法、評価を工夫改善する。 研究の見通し(仮説) 少人数授業やT・Tによる個に応じたきめ細かな指導によって、適切な支援や評価を行い、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を向上させることができる。</p> <p>研究内容・方法 ・平成15年度に引き続き、各教科において、基本問題の定着度を確認するため、単元ごとに小テストを実施し、早期に適切な指導を行う。 ・基礎・基本の定着と向上を目指し、指導方法の改善や教材の工夫に努める。 ・評価規準、評価基準により、指導と一体した評価を進め、学習意欲を高め、確かな学力を向上させる。</p>
--------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・個別指導の際、一人一人に時間をかけることができ、個に応じた指導が行いやすくなった。
- ・少人数授業のため、発言しやすい雰囲気をつくることができ、発言の少なかった生徒も自己表現のできる場面が増えた。そのため、一人一人の学習意欲を高めることができた。
- ・図書室の辞書や本を用いて、自ら学ぼうとする姿勢をつけさせようと努力した。
- ・評価に基づき、教職員は基礎学力の定着状況をとらえ、その後の授業に生かせるよう、指導方法の工夫改善や教材の開発に取り組んだ。
- ・総合的な学習の時間に外部講師を招き、生徒の生活体験を増やし、感性を育む取り組みを実施した。

2. 今後の課題

- ・少人数授業において、確かな学力をつけさせるために、学習形態や教材をどう工夫すればいいか、研究を進める。
- ・より効果的な学習集団のあり方の研究を進める。
- ・同室複数指導(T・T)のあり方の研究。

学力把握のための学校としての取組

- ・小テスト、単元のまとめテストを実施したり、まめに提出物をチェックしたりして、学習の理解度を把握する。
- ・定期テストで到達度や理解状況を把握し、個別指導と授業に反映させている。
- ・授業に関して、生徒にアンケートをとり、研究成果や今後の課題を見出し、指導の手だてを研究している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・今年度は、校内での研究が主であったが、来年度は少人数授業の研究実践を公開する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		